



創立記念日(11月9日)にあたり

本日、安田学園創立97周年を生徒・教職員のみなさんとともにお祝いできますことを校長として嬉しく思います。

まず、創立記念日を迎えるに当たって、この厳しいコロナ禍にあって色々な行動が制限される中、学業・クラブ活動等に頑張っている生徒のみなさんに敬意を表したいと思います。また、同じくコロナ禍にあって本校のために頑張っていただいている教職員のみなさんに感謝をしたいと思います。

生徒のみなさんは、今年はコロナ禍による影響で毎日不安な日々を過ごされたばかりではなく、不本意な学生生活を強いられたと思います。特に、1年生のみなさんは、入学式もホームページ上となり、学校としても心苦しく思っています。これからは「新しい日常」の生活になり、従来の学生生活に戻るの難しいかもしれません。しかし、きめ細かい個別指導が歴史と伝統の本学園ですからその利点を生かして、みなさんがコロナ禍を乗り越えて、学びをしっかり継続し、学生生活を楽しむことができるように、教職員一丸となって支援していきたいと思っています。

本校の卒業生は、創立以来実に50,000人以上であり、社会の多方面にわたって活躍しています。このように多くの優れた人材を輩出してこられたのも、歴代の理事長先生をはじめ教職員や生徒のみなさんの努力に加え、PTA、同窓会の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

わが安田学園は1923年(大正12年)4月に、初代安田善次郎翁の遺志によって創立され、今年で97周年を迎えます。

この間本学園は幾多の変遷を経てきました。大正から昭和の初期にかけては、東都中等実業学校の雄として、その名声を、ほしいままにしてきたと言えます。何よりも安田家による財団の設立によって、強固な財政基盤が確立され、最新の施設・設備が完備されて多くの優秀な学生が集まりました。

ところが、第二次世界大戦の終結に伴い、GHQに突然校舎が接収されるという悲運に遭遇し、その後9年間は柳島(やなぎしま)横川(よこかわ)にと、流浪・苦難の時代を経験しました。幸いに生徒と教職員が和を以って協力し、この難局を乗り切ったのです。

その後現在の地、横網(よこあみ)に戻るや、時代の進展に即応して、1965年(昭和40年)に普通科が、1971年(昭和46年)には全国に先駆けて情報処理科・情報技術科が新設され、高等学校においては7つの学科があり、中学校と工業専門学校を併設する、一大総合学園となりました。

そして平成に入りグローバル化の進展が進む中、2010年(平成22年)に新たに教育目的「国内外の社会で有用となる人材の育成」を掲げ、その実現のために教育目標「自学創造：自ら考え学び、創造的学力人間力を身につけ、グローバル社会に貢献する」を2012年(平成24年)に設定し教育活動を行っています。これは、善次郎翁の理念を実践追求していくこと、すなわち現代社会が求めている人材を輩出し続けることなのです。

そして2014年(平成26年)には、創設以来の商業科と工業科を廃止し、普通科のみとし同時に共学化に踏み切りました。その後の生徒のみなさんの頑張りや教職員の努力が、進学実績の向上やクラブ活動の結果に結び付き、入学希望者も増加し安定した生徒数を確保しています。

このように本学園の現在ある姿は、我々の先輩や現在在籍している生徒のみなさんや教職員が長年にわたって作り上げてきた歴史と伝統の上に来上がったものです。添付した資料を参考にさせていただき、本日の創立記念日は、創立記念を祝うだけでなく、創立の原点に立ち返って、過去の歴史や伝統を振り返り学園の将来をしっかりと考える機会になればと思います。それによって学園全体の士気が高まるきっかけになることを期待しています。

97周年を迎えるこの日に、生徒のみなさんにとって、自分が学び、青春時代を過ごした学校「安田学園」を愛し、母校として生涯かかわりを持つ学校が将来ますます「よい学校」に発展することを願うのは自然な心情です。「伝統は歴史ではなく、絶えまない創造である」と言われます。これまでの97年の伝統を引き継ぎ、新たな歴史を積み上げつつ、みなさんの若く明るく元気なエネルギーで学校生活を充実させ、安田生として誇りをもってグローバル化した社会に巣立って欲しいと思います。

最後になりますが、みなさん一人一人が本学園の生徒・教職員であることに誇りを持ち、志を高くして、日々の学業・クラブ活動・業務・教育等に専念しさらなる飛躍をすることを願っています。

校長 稲村 隆雄